

2025年度退職教員



はなざき いくよ
花崎 育代 教授
日本文学研究学域
日本文学専攻
2006年4月着任



あかま りょう
赤間 亮 教授
日本文学研究学域
日本文学専攻
1991年4月着任



き だち まさあき
木立 雅朗 教授
日本史研究学域
考古学・文化遺産専攻
1995年4月着任



はぎわら まさき
萩原 正樹 教授
東アジア研究学域
中国文学・思想専攻
2007年4月着任



なかむら ただお
中村 忠男 教授
国際文化学域
文化芸術専攻
1995年4月着任

訃 報

- 教授 **やまざき ゆうこう** **山崎 有恒** 先生 2024年11月21日逝去
〈文学部の在職期間：1995年～2024年〉
- 名誉教授 **もりや けいこ** **守屋 慶子** 先生 2025年1月26日逝去
〈文学部の在職期間：1960年～1997年〉

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入会案内（2006年度以前にご卒業の皆様）

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では約20,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生の皆様や文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。入会にあたっては、終身会費として10,000円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展、ならびに、学生・院生の支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

文学部校友会入会手続きについて

2006年度以前にご卒業の方が新規にご入会いただく場合は、文学部校友会事務局までご連絡いただくか、文学部校友会HPの入会申込フォーム（下記URL参照）よりお申込みください。

▶ **立命館大学文学部校友会事務局**

☎ 075-465-8187（文学部事務室内）

✉ ltalumni@st.ritsumei.ac.jp

🌐 <https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/ltalumni/entry/>



原稿募集

文学部校友会報LETTERS（年一回発行）では「文学部校友の『いま』」「伝言板（同窓会案内）」などの原稿を募集しています。詳しくは文学部校友会事務局までお問い合わせください。

同窓会への支援

下記に該当する同窓会活動に関する経費を補助します。

クラス・ゼミ等同窓会

正課の小集団科目に関する同窓会
※正課外の同窓会においては常任幹事会が承認した同窓会も対象

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が参加するもの

〔補助内容〕同窓会開催、案内状送付、会報や記念誌の印刷、同窓会HP作成など、同窓会活動に関わる経費。
★同窓会開催をご検討されている方は、事前に文学部校友会事務局までご相談ください。

申請団体	補助の根拠	補助金支給上限額
クラス・ゼミ同窓会	①文学部校友会員が3名以上参加するもの。 ②事前申請書に担当教員の確認印。教員に確認が取れない場合は文学部校友会事務局へ相談。	10,000円（実費） ※領収書必須
専攻・プログラム同窓会	①文学部校友会員が3名以上参加するもの。 ②同窓会規約。規約がない場合は文学部校友会事務局へ相談。	100,000円（実費） ※領収書必須

申請方法など、詳細はこちらをご参照ください。

▶ **同窓会活動・補助－申請書類・流れ**

🌐 <http://www.ritsumei.ac.jp/ltalumni/dousoukai/workflow.html/>

同窓会活動補助費の事前申請がWebでできるようになりました！

▶ **活動補助費申請フォーム**

🌐 <https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/ltalumni/dousoukai/>



デジタル会員証について

2022年3月より、デジタル会員証を導入いたしました。

※本サービスは文学部校友会が発足した2007年度以降の卒業生、または終身会費をお支払いいただいた「文学部校友のみ」に限定されております。なお、特設ページなどにアクセスするものではなく、「校友会員」であると表示されるだけのものになります。

〔ログイン方法〕会員証をご提示いただく際は、文学部校友会HPで「会員証」ボタンをクリックするか、ブラウザで下記URLを入力し、ログインしてください。

🌐 <https://www.web-dousoukai.com/rits-ltalumni/>

ログインID 学生証番号／会員番号 ※1

パスワード 生年月日（YYYYMMDD形式で入力） ※2



※1 会員番号はSで始まる番号、または16で始まる番号です。
※2 西暦年4桁＋月2桁（1月の場合「01」）＋日（1日の場合「01」）の8桁

LETTERS

College of Letters



EVENT

**2025年度文学部
校友会総会・懇親会
11月30日（日）開催！**

くわしくは3ページへ

会長ご挨拶

立命館大学文学部校友会 会長 **いけのぼう せんこう** **池坊 専好**



この10月13日まで大阪・関西万博が開催中です。前号の校友会報『りつめい』では、特集が組まれ、それぞれのかたちで万博運営に関わる校友や万博学生委員会「おおきに」の活動が紹介されていました。

前回、大阪で開催された1970年の万博から55年。世界状況が混沌とし分断もある中で開催されている今回の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。AIやチャットGPTが進む社会で人のいのちはどうなっていくのか、何を選び取りどのように生きていくのか、未来の展望を問かけます。立命館大学の学生たちがシグネチャープロジェクトのプロデューサー中島さち子氏の「いのちの遊び場 クラゲ館」と連携した活動を行い、社会課題解決に取り組み、そしてその経験を今後も生かしていこうとしている姿勢は心強く思います。

また、いのちを知るパビリオンである福岡伸一氏の「いのち動的平衡館」では、動的平衡として、利他の考えがシンプルな映像美を伴いながら提示されていました。他を思いやることで自らが生きることができるのは生物の本質でもあるということです。改めて、循環の中の人の存在を考えさせられました。こちらも見た方々にとって、そこか

らさまざまに思考を展開、発展できることでしょう。

それ以外にもさまざまなジャンルのさまざまなスキルを持った立命館校友がその能力を発揮し万博を支えていることから、立命館の持つダイバーシティと各々の個性を尊重し育む懐の深さが伝わってくるように感じられます。そしてそれは個々の個性に立脚した豊かさ、社会のしなやかさ、レジリエンスに繋がります。

人はひとりだけで成長することは決して容易ではありません。しかし、人との交わりや場の機会を得ることで、自分の想像を超えた力や感性が与えられ変わることができるのではないのでしょうか。

文学部校友会が、校友ひとりひとりの心のふるさとであるとともに、互いの存在が刺激となり成長し、社会、世界へ貢献できる一助となりますことを願っています。

- 2012年 文学研究科 人文学専攻博士課程前期課程 日本史学専修修了
- 華道家元池坊 次期家元

今号から、懇親会の開催日時は『りつめい』（夏季号）に掲載し、LETTERSについては原則として個別郵送は行いません。ご了承のほどよろしくお願いいたします。

学部長ご挨拶

立命館大学文学部校友の皆さまには、日頃より学部へのご支援・ご協力を賜っております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。おかげさまをもちまして、2024年度には合計1032名の新たな校友会会員を迎えることができました。

立命館学園は、昨年度2024年度をもって、西園寺公望が私塾「立命館」を創始した1869年から155年が経過しました。そして本年2025年においては、西園寺の精神を中川小十郎が引き継ぎ、立命館大学の前身となる私立京都法政学校を設立した1900年から125周年となります。

この間、「自由と清新」を建学の精神に掲げまして、教学理念を「平和と民主主義」にさだめ、現在においては大学は立命館大学と立命館アジア太平洋大学の2大学、これに加えて4つの附属中学校・高等学校、1つの附属小学校を擁し、学生・生徒・児童数約5万人が在籍する私立総合学園へと発展してまいりました。いまは2030年にむけて、学園ビジョン「R2030チャレンジ・デザイン」を策定し、次なるステップに踏み出そうとしているところでございます。

それは、未来社会のあるべき姿を実現するために、研究と教育をさらに一層緊密に接合できる「次世代研究大学」を目指すというものでございます。そのために“RITSUMEIKAN FOR SOCIAL IMPACT”の旗印のもと、現代社会における諸課題を解決し、未来社会を切り

立命館大学文学部長 ^{えんどう ひでき} 遠藤 英樹



拓ける知の創出を目標としています。文学部もまた、これを可能とする人文学を目指そうとしています。

ChatGPTなどデジタルテクノロジーの進展。

トランプ政権の動向をはじめグローバルな現代社会の状況。

こうしたことを考えますと、文学部はみずからが展開する人文学の高度化をもとめられ始めています。このためにはグローバルな現代社会の中で、ことばや記号、歴史、文化等に対する感度をこれまで以上にあげ、既存の人文学の長所をさらに伸ばしていく必要がございます。すなわち文学部は、みずからが展開する人文学を「新たな高み」へと飛翔させるとともに、同時に、その「根源」を深く掘り下げていくことがもとめられているのだと存じます。

文学部は1927年に設置され、もうすぐ100周年を迎えますが、2027年度の100周年記念事業にむけて、「新たな時代の人文学」を真摯にもとめ続けたいと考えております。ただ、このことは、校友の皆さまからのお支えがなければ決してできません。これまで頂戴しているご支援に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともに学び、成長する文学部に対し、変わらぬご支援を謹んでお願い申し上げます。

2024年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会会長賞 受賞者コメント

イメージカラーと言葉の関係性

受賞当時:日本語情報学専攻 4回生

^{まつもと しおん} 松本 詩音

この度は、2024年度文学部ゼミナール大会において文学部校友会会長賞をいただけたこと、大変嬉しく思います。

私の研究テーマは、『『プリキュアシリーズ』『スーパー戦隊シリーズ』の決め台詞からみるイメージカラーと言葉の関係性』です。色と言葉の関係については今まででも研究がなされてきましたが、これまで「“キャラクターに付与された”色と言葉」に焦点を当てたものはありませんでした。そのため、今回の研究は私にとっても未知の領域でした。調査では、「イメージカラーと言葉は併せて使用されることで、受け手に効果的な印象を与える」ことが明らかになりました。皆さんがご存知のプリキュアや戦隊ヒーローは、どのような印象でしょうか？ 思い浮かんだそのイメージは、彼女たちに与えられた色、そして使われる言葉から影響を受けているのかもしれない。

ゼミナール大会でいただいたご指摘のもとに、研究内容を更にブラッシュアップすることができ、まだまだ熟考すべき点があることにも気づくことができました。本当に沢山の収穫があったと強く感じています。今後、この大会がより広く認知され、多くの研究が前進する機会となることを、心から願っています。



2025年度 文学部校友会 総会・懇親会のご案内

時

2025年11月30日(日) 11:30～15:00
(10:30～受付開始) [総会 11:30～12:00／懇親会 12:00～15:00]

所

ホテルオークラ京都(翠雲の間)
〒604-8558 京都市中京区河原町御池 TEL.075-211-5111
地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結

講演会(60分程度)

演題

新聞から見る19世紀の上海競馬

^{うえの りゅうぞう}

上野 隆三 教授

(東アジア研究学域 現代東アジア言語・文化専攻)

上野 隆三教授

文学部現代東アジア言語・文化専攻に所属し、中国映画などの現代中国文化についての授業を行っている。ももとの専門は中国古典文学で、今でも中国明清の白話小説を研究テーマの一つとしている。最近のテーマは、現代中国語映画、台湾の大学生の意識調査、19世紀上海のレクリエーションなど幅広い。



ミニコンサート(30分程度)

マンドリンクラブによる
ミニコンサート

マンドリンクラブ

イタリア発祥である3種のマンドリン属の楽器と、クラシックギター、コントラバスで演奏を行っています。現在は、12月12日(金)の定期演奏会に向けて日々練習しています。定期演奏会のほかに、学内行事での演奏や地域の方々からの依頼演奏も行っています。マンドリンの優しい音色にご注目ください。



参加対象

文学部校友会会員※・文学部卒業生

定員 会場定員150名(応募者多数の場合は先着順となります)

※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください(詳細は会報P.8「入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)」をご覧ください。)

お子様の
同伴を
歓迎します

1. お子様ランチを用意しています。
2. 乳幼児期のお子様については飲食物の持ち込みが可能です。
3. 託児サービス「キッズスクウェア」の利用が可能です(6ヶ月～小学6年生まで)。開催時間分の50%の料金を校友会にて補助します。「キッズスクウェア」について、詳しくはホテルオークラ京都のHP(<https://www.alpha-co.com/nursery/facility/hotelokurakyo>)をご覧ください。

参加費

文学部校友会会員 2,000円

▶ 非会員(入会いただいていない方・同伴の方) 3,000円

(お子様ランチのご利用…1,000円、飲食物持ち込みの乳幼児…無料)

無料招待枠

2024年度卒業生(2024年9月～2025年3月卒)、
卒業後10年(2015年度:2015年9月～2016年3月卒)、
卒業後50年(1975〔昭和50〕年)の
文学部校友会会員の方は無料で招待いたします。

懇親会に参加をご希望の方は以下のどちらかの方法でお申し込みください

Web 申込

▶ 立命館大学文学部校友会HP▶「イベント」▶「懇親会参加申込」(<https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/italumni/events/>)からお申し込みください。

ハガキ申込

▶ 校友会報「LETTERS(Vol.17)」内の折り込みハガキに必要事項をご記入のうえ、85円切手を貼ってお申し込みください。



申込期限

2025年10月31日(金)
〈必着〉

最新情報は文学部校友会のホームページやFacebookでご案内させていただきます。

【お問合せ先】立命館大学文学部校友会事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8187 FAX:075-465-8188
E-Mail:italumni@st.ritsumei.ac.jp HP:<http://www.ritsumei.ac.jp/italumni/>

伝言板

第50回英米文学同窓会

【日時】2025年11月30日(日) 15:00 受付開始、15:30～17:30 総会・懇親会

【場所】ホテルオークラ京都(予定) ※詳細は8月頃に発行予定の英米文学会報をご覧ください。

※記念すべき50回大会となります。皆さまの参加をお待ちしております。

2025年度地理学・地域観光学同窓会イベント

【日時】2025年10月19日(日) 13:30～16:00頃

卒業生による巡検「西陣空襲」「平安京大内裏」他

※詳細は同窓会だより・webで。11月29日(土)もミニ巡検他イベントあり

文学部校友会 懇親会報告

〔時〕2024年11月24日(日) 11時30分～14時30分

〔所〕ホテルオークラ京都(暁雲の間)

池坊専好会長による開会の挨拶のあと、遠藤英樹文学部長から乾杯のご発声があり、歓談がはじまりました。フルコースを味わいながら校友との再会を楽しみ、和気あいあいとしたなごやかな雰囲気の中、世代を超えてにぎやかに交流されていました。



演奏会

立命館大学交響楽団による四重奏



歓談の中ごろには、前年度に引き続き、立命館大学交響楽団による四重奏をお聴きいただきました。校友の皆さまからご要望の多かった校歌を演奏していただき、それぞれが懐かしい旋律に聴き入り、学生時代の思い出に浸っていました。

講演会

赤間亮教授



ひととおり歓談がすんでから、文学部の赤間亮教授に『『デジタル・ヒューマニティーズ』と文学部』というタイトルでご講演いただきました。デジタル技術と人文科学の諸分野が交差する学術分野「デジタル・ヒューマニティーズ」は常に成長し変化する、といった研究の根本からデジタル化の今後まで丁寧に説明いただきました。現役の教員による研究報告に校友の皆さまも知的好奇心を刺激されていました。

出張立命寄席

立命亭矢志生氏



講演会のあとは立命館大学落語研究会による出張立命寄席でおおいに笑っていただきました。高座名・立命亭矢志生(りつめいていやしい)氏からは「いつもとは違った緊張感があり受け入れられるか不安でしたが皆さん暖かく笑っていただけたのでとても楽しく落語が出来ました!」というコメントが寄せられ、校友の皆さまはご自身の往時を重ねていました。

抽選会

最後は、恒例の抽選会が行われ、立命館大学文学部出身の作家の著作、プロ野球選手のグッズなどがあたり、大盛況ののち閉会となりました。2024年度の懇親会は、20代、30代の参加者も多く、お子様連れの校友もいらっしました。文学部校友会はこれからも懐かしい校友との出会い、新たな校友とのつながり、教員や現役の学生との交流など校友会だからこそできる企画運営に努めてまいります。

文学部校友の「いま」



細く長く続けていきたい小さな店

入学してすぐ、オリエンテーションでの先生の談話で、近くの和菓子屋巡りを勧められた。京都には有名な店以外にも、ちいさな地元の店がたくさんあるからと。思えばその話は、私があたためて「個人店」「小商い」を意識するきっかけだったかもしれない。

授業の合間に小さな店を訪ね歩いた。和菓子に始まり、雑貨屋、そして本屋、古本屋を巡った。住宅街の奥の自宅兼工場、お宮の参道の店、バスの窓から見えた店。ずっと変わらずあるような店や、店主の顔が見える店に惹かれた。趣や、商品の並び、価格からも店主の考えや個性、そして歴史がにじみ出ているようで、どの店にもそれぞれの良さがあった。私が売る側になったきっかけは、古本市だった。業者というより個人が持ち寄る市だ。レジャーシート1枚分のスペースに並ぶ棚や陳列、装飾ひとつにもそれぞれ個性があって、売りたい本から店主その人が表れているような感じがかった。幸い売る本が手元にあったので、いくつかの古本市に参加するうち、自分の手を介して本を売ることがどんどんと面白くなっていった。

そうして今、静岡県湖西市で小さな古本屋をしている。会社員や子育ての合間に時折営業したり、イベントに出張したり、というスタイルで細々と始め、まだまだ手探りではある。歴史もひとつの主観だと学び、名を刻むことよりも、日々の暮らしの語られない営みに魅力を感じてきた。小さな店には画一化されない良さがあり、それが町と暮らしをかたちづくっているのではないかなと思う。私もこの町で自分らしく、細く長く続けていけたらと思う。



の ず え ち か
野末 知佳(旧姓 辻本)

books cicalata 店主
西洋史学専攻
2012年3月卒業

教育と研究の両立を目指して

2024年4月に舞鶴工業高等専門学校に国語の教員として着任してから、1年以上が経ちました。舞鶴高専は、豊かな自然と港湾都市としての歴史がある舞鶴に位置し、5年間の一貫教育で実践的な技術者を養成する高等教育機関です。

授業では、「羅生門」など国語の定番教材も扱いながら、ものづくりに関わる意見文の作成や、舞鶴の引揚記念館に保存されている「白樺日誌」を題材にしたグループ発表をしてもらうなど、高専ならではの工夫もしています。校務と授業に追われる日々ではありますが、学部生の頃から継続している研究課題にも取り組んでいます。

私は日本文学専攻での3年生のゼミで明治期の冒険小説に出会って以来、現代のポップカルチャーのルーツを探りたいという思いから、明治大正期の冒険小説や出版文化についての研究を続けてきました。

そもそも私が高専教員を目指したきっかけは、大学院の博士後期課程を修了後、研究をしながら非常勤講師を続けるなかで、研究活動で得られた成果を教育という形で社会に還元でき、そこから得た知見で自身の研究も広がっていくと気付いたことでした。教育と研究をどちらも続けていけるというのが、高専教員の大きな魅力です。

今年度からは、1年生の担任をすることになり、校務の分量もより増えてきました。学生を見守り支援することに力を注ぎながら、自分の研究活動も続けていくこと、それが今後の大きな課題です。教育と研究の両立を目指して、これからも工夫を重ねていきたいです。



た け だ ゆ き
武田 悠希

舞鶴工業高等専門学校
人文科学部門 講師
日本文学専攻
2010年3月卒業
文学研究科 人文学専攻博士課程後期課程
2018年3月修了

『台湾におけるマイノリティ文学』

私はこれまで、近代中国の演劇研究、特に上海を中心とした地方劇に取り組んできましたが、2010年から翌年にかけて台湾の中央研究院中国文哲研究所に滞在したことをきっかけに、台湾文化の研究にも関心を広げるようになりました。ここでは、私の台湾研究についてご紹介します。

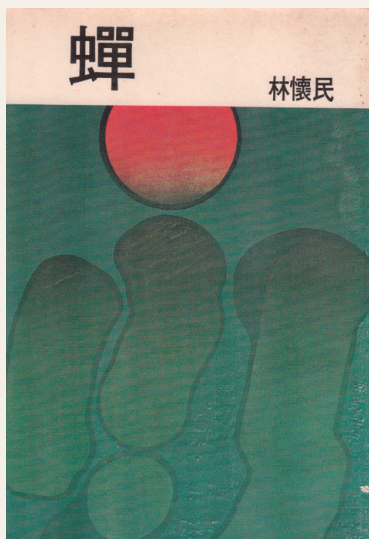
もともと中国演劇を研究していた私にとって、台湾の演劇文化は新鮮でした。新中国建国以降、演劇などの文芸作品は政治的制約を受けてきたため、それ以前の時期を中心に研究してきました。一方、台湾では1987年の戒厳令解除以降、自由で多様な文化が徐々に花開き、2010年以降に私が実際に目にした演劇文化の豊かさには驚かされました。

特に印象深かったのは、台湾を代表するモダンダンス・カンパニー、雲門舞集（クラウド・ゲート、1973年設立）の舞台です。代表作の一つ「流浪者の歌」では、僧侶姿のダンサーが舞台の端に静かに立ち、上から稲のもみ殻が砂時計のように降り積もっていきます。その中で繰り広げられる舞踊は、日本の暗黒舞踏も彷彿とさせる不思議

な舞台体験でした。

この作品を手がけた林懷民（1947年生）は、雲門の創設者であり、著名な舞踊家ですが、若い頃にはモダンズム作家としても活動し、小説集を2冊刊行しています。中でも『蜉蝣』（1969年）は今なお版を重ね、若者たちに親しまれる青春小説です。表題作「蜉蝣」には、主人公の男子学生の回想に登場するゲイの友人が描かれ、台湾の同志（セクシュアル・マイノリティ）文学の流れの中でも注目される作品です。

2019年、台湾はアジアで初めて同性婚を法制化しました。LGBTQフレンドリーな社会として知られますが、男系の継承を重



左：林懷民『蜉蝣』（大地出版社、1978年第八版）／右：筆者が近年手がけた台湾小説の日本語版



視する伝統的な「伝宗接代」観や、長年の戒厳体制の中で性的少数者は不可視化されてきました。林より一世代上の白先勇（1937年生）が書いた、台湾同志文学の金字塔とされる『孽子』（1983年）は、「不孝の子」を意味し、抑圧の時代を象徴しています。台湾のLGBTQの人権状況は、90年代以降の民主化とともに徐々に改善されてきたのです。

林懷民の小説を同志文学の視点から読み解いたことがきっかけで、私は現代台湾文学に広く関心を持ち、文芸翻訳にも取り組むようになりました。陳思宏『亡霊の地』（原作2019年、邦訳2023年）は、田舎町に生まれたゲイの少年の成長と家族の物語であり、女性の不遇も描かれることからフェミニズム文学としても読むことができます。性的少数者や女性といった、社会的に弱い立場に置かれがちな人々の視点から紡がれる文学は、日本社会を照らす〈鏡〉にもなるのではないのでしょうか。文芸翻訳もまた、研究の大切な一環として今後も取り組んでいきたいと考えています。

PROFILE

早稲田大学大学院文学研究科芸術学（演劇映像）専攻博士課程単位取得満期退学。早稲田大学第二文学部助手、広島経済大学准教授、立命館大学文学部准教授を経て、2020年より現職。近現代中国語圏の演劇文化や文学研究に取り組む一方、文芸翻訳も行う。近年の論考に「演じる身体、演じられる欲望：黄蜀芹『舞台女優』を中心に」（『未名』43号、2025）、共著に『旅する日本語——方法としての外地巡礼』（松籟社、2022）など。台湾文学の翻訳に陳思宏『亡霊の地』（早川書房、2023）など。



私の学生時代 No.003

1%の欲望と99%の偶然

大学に入学したのは1980年だが、2年間浪人していたので、周りの学生とはあまり話が合わなかった。勉学意欲はあったのだが、当時の大学では5月の連休明けくらいから始まる授業も少なく、専攻分属の前に受講する教養の授業は受講生が数百人いても出席者は10名程度という状態だった。期末試験では模範答案が教室中を回覧板のように堂々と回されているのに、監督の教員は全く関心を示さなかった。採点する教員は答案で紙飛行機を作り、飛んだ距離で評価しているという噂だった。学生運動の名残が色濃く残っていて、廊下で学生が取組み合いの「闘争」をしていて、「止めんと死ぬぞ」と心配する学生もいたが、ほとんどの学生は見向きもせず通り過ぎていた。

私は古代ギリシャ哲学に少し興味があり、教養の授業やギリシャ語の授業に出席していた。私と仲の良かった友人も出席していたが、その友人に誘われて、麻雀が強い別の学生が途中から授業に参加した。その学生は原始人のような風貌で、教養も皆無で、ギリシャ哲学とは正反対の位置に存在しているはずなのに、ギリシャ語は麻雀と同様、抜群にできた。結局、自分は語学の才能がないことを悟り、語学以外で何とかなりそうな考古学専攻を選んだ。3回生が受講する考



矢野 健一

教授
1984年3月 京都大学 文学部
考古学専攻 卒業
2002年4月 立命館大学 日本史研究学域
考古学・文化遺産専攻 着任

古学の実習は、博物館に展示されている実際の遺物を観察して、図を描き、レポートを書くという授業だった。この「図を描く」という作業が、ギリシャ語に挫折した私には新鮮だった。

3回生の夏休みに、先輩に誘われて八ヶ岳のふもとで縄文遺跡を発掘した。地元の女子大生が参加し、一緒に合宿することになっていた。私とその発掘に参加したのは、そのこととはほとんど関係ない。私は3回生でありながら、1つのトレンチ（発掘する区画）を任された。それまでに、作業員として発掘に関わったことはあったが、指示する立場に立ったことはなかったのも、とまどった。しかし、宿舎での毎晩の宴会も含めて、何とか乗り切ったので、自信がついた。今から思えば、この発掘が自分の現在を決定したように思う。この発掘はすべての出土遺物の位置を三次元の座標に記録するという方法で実施された。現在では当たり前の方法だが、当時は先進的な手法だった。また、縄文時代の地層に含まれる花粉から縄文農耕の実態を検証するという課題も先進的だった。市河三次先生と泉拓良先生がこの発掘を企画されなかったならば、今の私はなかったかもしれない。

卒業論文は4回生になってから課題を決定した。縄文時代早期の押型文土器の研究だった。これも先輩のアドバイス、というよりも、縄文時代前期・中期・後期・晩期は大学の先輩が卒業論文で成果をあげてきたので、「お前は先輩がやっていない早期をやれ」と言われた。これに従わざるを得なかったのである。「そんなんじゃええんか」という気分始めた研究だったが、新たな成果をあげたので、考古学の道に進めた次第である。

大学院で学問を探究してみませんか？

立命館大学大学院文学研究科には、社会人もしくは社会人経験のある大学院生も在籍しています。仕事に直結する専門知識の習得、生涯学習、学位取得など、学びの目的はさまざまです。文学部を卒業した皆さん、立命館大学大学院で学問を探究してみませんか？

文学研究科は80名以上の教員を擁します。博士課程前期課程には、より高度な人文学を身につける「高度探究コース」と、研究者を目指す「研究一貫コース」の2つのコースがあります。専攻・専修を超えた多様な科目の受講や研究活動も可能です。

11月から「大学院ウィーク」や「大学院進学説明会」などのイベントを開催します。文学研究科の紹介や最新の入試動向、文学研究科の教員や大学院生に直接相談できる機会を提供する予定です。イベントの詳細や申込方法は、「立命館大学大学院 入試情報サイト」をご覧ください。



立命館大学文学研究科ホームページ
<http://www.ritsumei.ac.jp/gslit/>



立命館大学大学院入試情報サイト
<http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>